

訴求内容と テーマ

「日本茶でつなぐ、過去から未来へ」
伝統＝ 全国生産地の特徴と風景や営み
多様性＝ 様々な種類の日本茶の再認識
未来へつなぐ＝ 日本茶の新しい楽しみ方



■ブース展開の基本設計

大阪万博内への出展という前提から、通常のイベント出展時よりも滞在時間が短い＝回転率が高い、と想定した。参加者が何を訴求しているのかを直感的に理解し、気軽に立ち寄れるようなブースを運用した。

基本となる考え方は、「**五感を刺激する日本茶ブース**」であることを前提にブース運営を実施。

- 視覚：ブース装飾、展示レイアウト、映像放映によりアイキャッチとして、立ち寄りやすいデザインを提供
- 味覚：日本茶インストラクターによる美味しい淹れ方にこだわった日本茶の試飲体験機会を提供
- 嗅覚：茶香炉を用い、ブースから離れている通行者に向けてお茶の香りを届けて、気付きの機会を提供
- 触覚：現物の茶葉に触れて、香りも体験できる機会を提供
- 聴覚：スタッフによる日本茶試飲時の声かけ、PR動画、BGMによる音響演出の場を提供

上記のポイントを押さえ、デザイン的には「極力シンプル」に、また一人でも多くの方々に試飲体験できるように「機能性あるブース構造」であることを念頭において設計

国内外問わず、日本茶の魅力幅広く伝える伝え、普段、自身でお茶を淹れることに慣れていない方をもターゲットとし、
美味しいお茶の淹れ方の紹介、デモンストレーションをもとに、
より身近に感じていただくことにより「日本茶ファンの裾野を広げていくこと」をゴールとした。

■ブース展開内容

1 日本茶の紹介とお茶の淹れ方デモンストレーション

- ・日本茶インストラクターによる、全国各地のお茶と美味しい淹れ方の紹介
※インバウンド向けに英語対応が可能なスタッフも常駐

2 茶産地4エリアの日本茶の試飲体験

- ・静岡/京都/三重/鹿児島のお茶を中心にした紹介と試飲
- ・4つの茶産地から生産者等がお茶の特徴を説明するとともに、試飲を行った。
実施時期が6月のため、冷茶/水出し茶を中心に提供

3 PR映像放映

- ・全国各地の日本茶PR動画を収集し、全国のお茶のためのサンプル茶/展示/見本の素材を作成し、タイムテーブルを組んで動画を投影

4 パネル展示

- ・全国の茶産地をMAPで紹介（観光誘致にもつながるよう内容を工夫）
- ・茶種紹介（ひとつのお茶の葉から工程の違いにより様々な茶種になることを説明）

5 日本茶関連道具等の展示

- ・急須で淹れるお茶、より簡単にお茶を楽しめる新しい価値を提案する茶器と淹れ方を紹介
- ・お茶の歴史を感じさせる、蘭字・茶箱などを用いた装飾とディスプレイを実施

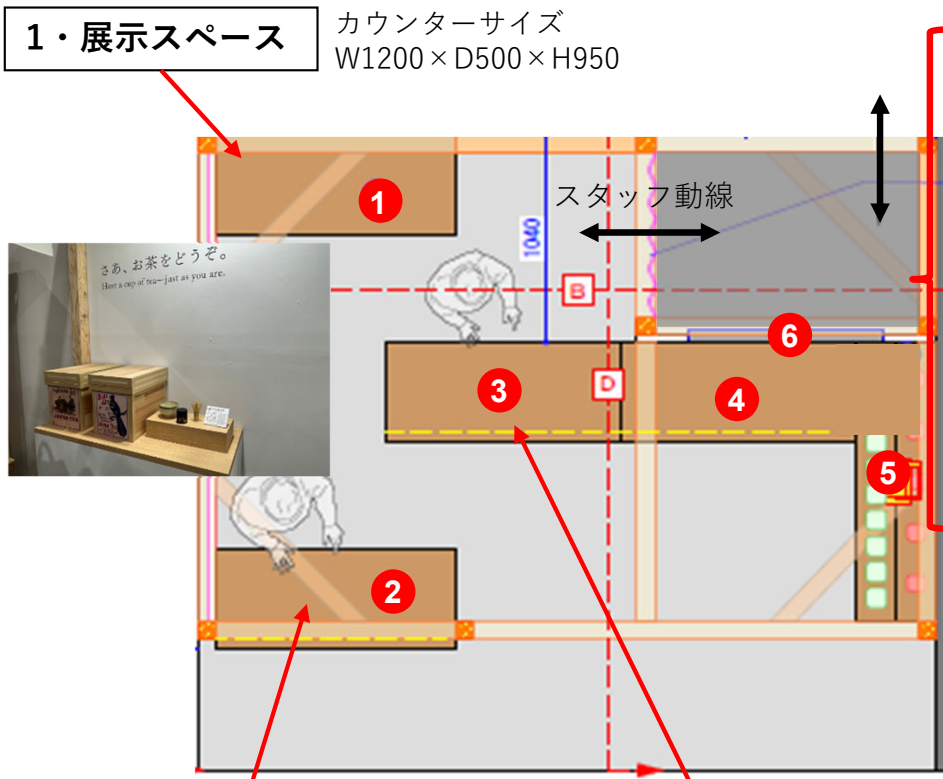
6 茶香炉を用いた香りの演出と茶葉に触れる機会を創出

- ・通行者に向けて香りでのPRと集客を図り、ブースに立ち寄るきっかけ創りを創出
- ・ブース内に見本の茶葉を用意し、触れて、香りも楽しめる環境を提供



図面-1

平面図



立面図

暖簾サイズ： W3,520mm×H500mm



2・呈茶デモ/試飲茶提供
カウンターサイズ
W1200×D500×H950

3・茶器・茶道具展示
カウンターサイズ
W1100×D500×H950

